



# visionaries around the world

## 世界のエルウーマンが描く未来設計図

### Vol.23 「世界の平和」と「市民の安全」を守る「軍縮」の最前線で

優れた国際感覚はもちろん、困難に向かうタフさや人間愛、志の高さを併せ持つ女性が多く活躍しているのが「国際機関」だ。国連の軍縮担当のトップとして奮闘する中満泉さんは、その代表的な存在。私たちが生きる世界の今と、エル読者へのメッセージを聞いた。

Photo MIDORI YAMAGATA (Portrait) Text MAYUMI YAWATAYA

## IZUMI NAKAMITSU

中満 泉/国連事務次長・軍縮担当上級代表

### それぞれが「自分にとって大切な課題」に取り組むことが、世界への貢献に

紛争地での現場経験が  
現職のハードワークの糧

日本人女性で初めて国連本部事務局の事務次長という要職に就いたのは、2017年5月。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連平和維持活動（PKO）、国連開発計画（UNDP）で活躍してきた生え抜きの人ではあるが、国連軍縮部（UNODA）に関わるとは考えたこともなかったそうだ。「グテレス事務総長に呼ばれて『軍縮はどうか?』と聞かれ、最初は何の話をしているのかと思っただけでした(苦笑)。ただ、専門家である必要はなく、新しい視点でシエイクアップ(揺り起こし)する人を求めているとのことでしたので、だったらできるかなと。それまで人道、PKO、開発のセクションで、軍縮の問題が現場の紛争と平和構築の根幹とつながっていること

は十分理解していましたから」  
就任2カ月後に「核兵器禁止条約」の採択を成し遂げた。1年後には、約80カ国にコンサルテーションを行ってまとめた「軍縮アジェンダ」を完成。停滞していた軍縮問題を短期間でアップデートし、国際社会でのプレゼンスを高めた。そう、見事なシエイクアップだ。

とはいえ、現代の軍縮が扱う対象は広範囲。核兵器といった大量破壊兵器から、紛争地で多く流通する小型兵器、AI搭載の殺戮兵器、サイバーや宇宙空間で使用するものまでと、気が遠くなるほど果てしない。「今は軍拡競争が始まりつつあると言っても過言ではない状況ですね。しかも、サイバー攻撃から始まって主要なインフラが止まり……というように、破壊や戦争の性格が変わる可能性も高い。新たな科学技術は人類に大きな恩恵をもたらすものだが

とは思いますが、  
それが兵器化されてしまった場

合の影響は、完全に予想できないんです。その予測不可能なインパクトをいかに考えて市民を守るか。私たちの軍縮努力のひとつです」

人間を守る。中満さんが一環して大切にしていることだ。「軍縮は政治的バランスを取るのがすごく難しい分野で、超大国の機嫌を完全に損ねると上手くいくこともいかなくなります。しかし、国連が守るべき価値は『人間中心』。言うべきことは言わなければならぬ。また軍縮という概念の根本には、安全保障と国際人道主義があります。安全保障は国家だけでなく、人間の安全保障が重要な時代です。人間を守る、市民を保護することは、いつも中心に据えて考えています」



国連PKO局アジア・中東部長としてアフガニスタンを主管していた頃。2013年。

き、中満さんのハートを支えるのはUNHCRなどで蓄積したフィールドでのリアルな経験。「紛争や戦争で、最も悲惨な状況に置かれる難民や女性、子どもたちの姿を見ました。例えば、ボスニアの町トウズラで会った避難民のおばあさん。第二次世界大戦で夫が戦い、第二次世界大戦では息子と孫を送り出し、家族4世代の男性が戦った。その人と話して初めて、国連憲章の前文にある『言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い』という文言の意味がスッと入ってきたんです。戦争の犠牲の連鎖を断ち切ることが、国連の役割だと痛感しました」

自らを危険に晒しても亡くなったムスリムの友人の妻と娘



右 国連PKO局時代。コンゴでは避難民の子どもたちと笑顔で交流も。左上 2017年5月、国連事務次長・軍縮担当上級代表の就任式。グテーレス事務総長と。



を匿い、逃すためにUNHCRの事務所に連れてきたクロアチア人男性の存在も忘れられない。「第二次世界大戦中にユダヤ人を匿った人のように、賞賛すべき勇気をもった人が紛争の現場にはたくさんいました。軍縮への情熱やモチベーションを保てるのも、若い頃にそうした感動をたくさんもったからだだと思います。人間の恐ろしさも素晴らしさの両方を知っています。大きな肥やしになっています」

「大きなことを考える必要はないんですよね。自分にとって重要だと思う身近な課題を勉強し、仲間を見つけ、できることを考

もつこと。生活のなかの格差や#MeToo運動などの女性の人權気候変動、プラスチック汚染など、トピックは何だっていい。

「大きなことを考える必要はないんですよね。自分にとって重要だと思う身近な課題を勉強し、仲間を見つけ、できることを考

もつこと。生活のなかの格差や#MeToo運動などの女性の人權気候変動、プラスチック汚染など、トピックは何だっていい。

「大きなことを考える必要はないんですよね。自分にとって重要だと思う身近な課題を勉強し、仲間を見つけ、できることを考

もつこと。生活のなかの格差や#MeToo運動などの女性の人權気候変動、プラスチック汚染など、トピックは何だっていい。

「大きなことを考える必要はないんですよね。自分にとって重要だと思う身近な課題を勉強し、仲間を見つけ、できることを考

もつこと。生活のなかの格差や#MeToo運動などの女性の人權気候変動、プラスチック汚染など、トピックは何だっていい。

えていく。そうやってそれぞれが異なるテーマに興味をもてば、社会にいろんな貢献ができていきます。お子さんがいる人は、小さいときからそうした話が自然にできる環境をつくってもらえればと思います」

日々の小さなアクションが身近な社会を、この世界をより良いものへと変えていく。私たちの力は小さくないわけだ。

中満さんは、現場の仕事が好きだと語る。目に見える形で成果がわかり、手応えもある。しかしトップとなれば、現場に行く機会は少ない。その代わり、現職には違う喜びがあるとも。

「よく喧嘩するアメリカとロシアに挟まれて苦労している、助けてくれる国がたくさんあるんです。北欧やドイツ、オランダ、スイスなど、軍縮や安全保障への取り組みを重要だと考える国々が「一緒にがんばろう」と支えてくれる。また上の立場にいると、部内の人たちが高い

モチベーションで仕事をし、新しい考え方やいいアイデアを出してきてくれることがすごく嬉しい。励みになります」

国際機関で働くうえでいちばん大切な資質を聞くと、「健康な心身と楽観的な性格」という答えが返ってきた。

「私もひと晩寝れば、嫌なことは消えてなくなるタイプです。人間の恐ろしい部分を見て落ち

込む局面も多い仕事ですから、日々の小さな成果を喜び、翌日の動機付けにつなげるスイッチを入れることも大切ですね」

週末は必ず、家族でジムに行き、家では「温泉の素」を入れてゆっくり入浴する。各地で覚えた料理をアレンジしてつくるのも好き。そして何より、2人の娘さんが最も大切なモチベーションの源になっている。



上 2017年8月、現職就任後の初訪日で広島、長崎の平和式典に参加。下 同7月、歴史的にも大きな意義をもつ「核兵器禁止条約」採択に際しては、粘り強く交渉、調整を重ね、国連加盟193か国中122か国の賛成へと漕ぎつける手腕を発揮した。

## Biography

- 1963 東京生まれ。
- 1989 米国ジョージタウン大学外交大学院で修士号取得。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 入所。トルコ、イラク北部、旧ユーゴスラビアなど紛争地での活動等に従事。
- 1998 スtockホルムへ転居。翌年長女出産。
- 2003 日本帰国。翌年次女出産。
- 2005 一橋大学国際・公共政策大学院の教授に着任。
- 2008 公募による採用で再び国連に就職。国連平和維持活動 (PKO) 局の政策・評価・訓練部長に。以後、コンゴ、スーダン、南スーダン、リベリア、コートジボワール、シリア、レバノンなどの現場に足を運ぶ。
- 2012 国連PKO局アジア・中東部長に異動。シリア内戦、アフガニスタン復興関連の課題に取り組む。
- 2014 国連開発計画 (UNDP) 総裁補・危機対応局局長に。
- 2017 国連事務次長・軍縮担当 (UNODA) 上級代表に就任。